

魅力的な職場環境を創出する 「ウェルネス作業所」の コンセプトと運用

大成建設株式会社 設計本部

シニアアーキテクト

でぐち りょう
出口 亮

大成建設株式会社 東京支店

作業所長

いだしんじ
伊田 真司

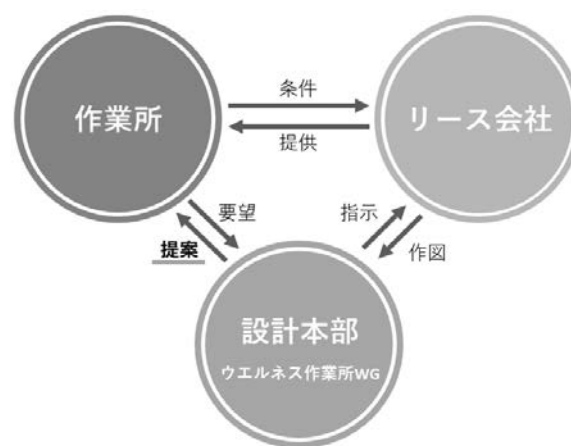
1. 「ウェルネス作業所」：働きがいのある 魅力的な建設作業所をつくる

「ウェルネス作業所」は、SDGsのターゲットの一つである健康経営を推進し、一人ひとりが働きがいのある魅力的な職場環境の実現を目指す「TAISEI Creative Hub」の一環である。建築・土木のものづくりの最前線である建設作業所を「仮設型ワークプレイス」と捉え、作業の負担軽減や作業環境の改善に加えて、社員・作業員間のコミュニケーション促進と心身の健康増進にも配慮した空間づくりにより、現場における生産性向上を図ることを目的とした取り組みである。

2. 建設作業所にワークプレイス・デザインを取り入れる

建設作業所は、一定期間の建設行為をサポートするための仮設物で、工事が終わればなくなるものである。そのため、一般的には極力コストを抑えた計画がなされてきた。

一方、働く環境の一つであるオフィスでは近年、画一的なデスク配置といったただの執務空間から、個人によって異なる快適性への対応やチームによる創造性を高める多様な空間・場づくりの工夫（ここでは「ワークプレイス・デザイン」と



ワークプレイス・デザイン ABWやWELLなどを取り入れた空間・場づくり

- ・コミュニケーション促進
- ・個人作業の効率
- ・チーム作業・情報共有の効率
- ・リラックス、リフレッシュ
- ・ストレス低減
- ・モチベーション向上

図ー1 ウェルネス作業所の仕組み

定義）がなされ始めている（図ー1）。

仮設物であっても、ワーカーにとってはある期間（時には数年にわたり）継続して働く環境であることは変わらない。通常、作業所内で計画されているプロセスに設計本部が介入し、建築設計の視点からワークプレイス・デザインをベースとしたさまざまな空間・場づくりを提案することで、

生産性が高まり、働きがいのある魅力的な作業所環境をつくることを試みた。

3. 大小さまざまな空間・場づくりの工夫「ウエルネスレシピ」

実際の建設作業所の設計を開始する前にまず、建設作業所にどのようなものがあるか、改めて把握した。敷地内に仮設事務所を設置するケースだけでなく、敷地外のテナントビルを活用するもの、期間も数年以上にわたる長期間から、1年に満たないもの、規模も大小さまざまなものがある。当然、作業所ごとにニーズも異なってくる。

これら多様なニーズに応えること、さらには長期的には設計本部が各作業所へウエルネス提案をしなくても、自律的にウエルネスな場づくりが行える状況をつくる必要があると考えた。

そこで、職場環境を豊かにする大小さまざまな空間・場づくりの工夫を、多彩な選択肢とする「ウエルネスレシピ」としてまとめ、図-2のように作業所ごとにレシピの中から

最適な項目を選択・適用することで、ニーズに則した空間・場づくりを実現できる仕組みづくりに取り掛かった。

レシピは大きく3つのカテゴリーがある（図-3）。「ボリューム」は、敷地内に仮設事務所を配置する場合に、その配置計画や棟構成によって豊かな屋外環境をつくる提案。「プランニング」は、人やモノの動線、関係性に着目し、コミュニケーション活性化や集中作業スペースをつくるといった提案。「エレメント」は、緑化や家具、素材や

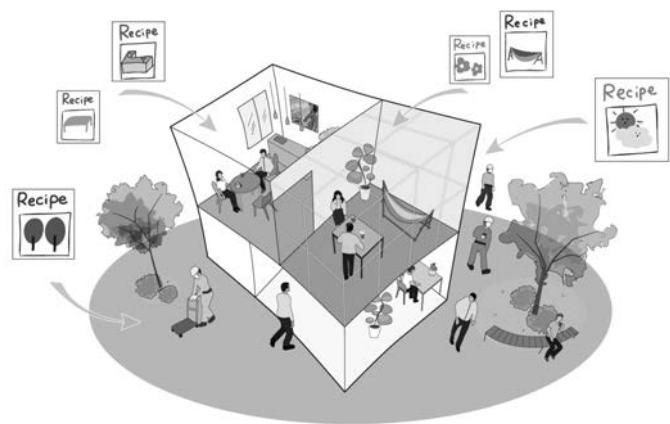


図-2 建設作業所に応じてレシピを採用する

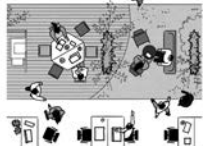
カテゴリー	レシピの例
ボリューム 豊かな屋外環境をつくる 配置計画や建物構成の 提案	複数棟の配置を工夫した隙間を活かしデッキやベンチで場づくり、1階屋根をテラスとする建物構成にするなど、豊かな屋外環境をつくる提案  ● 分棟カフェ ● コの字中庭 ● サンプルーム ● 段々テラス
プランニング 動線や関係性に着目する 空間の提案	多くの人が通る動線の要に、コミュニケーションを活性化させる設えをつくるなど、動線や関係性に着目する空間の提案  ● コミュニケーション・コリドー ● タッチダウンスペース ● アクティブミーティングスペース ● たそがれテラス
エレメント 緑化・家具・素材・サインなど 単独で採用可能な提案	室内に植物を置く、スタンディング会議テーブルを設置する、入れ替え可能なサインシステムなど、単独で採用可能な提案  ● 触って香る木の天板 ● グリーンシェルフ ● みんなのブラックボード ● 単管ミーティングスタンド

図-3 「ウエルネスレシピ」：3つのカテゴリーとレシピの例

サインなど、単独で採用可能な多種多様な提案で、仮設事務所でない環境でも採用が可能である。

現在、レシピは実施済みとアイデア含め 100 近くあり、実際の運用を見ながら改善・深化させていく方針である。

4. 「赤坂中学校等整備工事作業所」での計画

当社はグループ理念として『人がいきいきとする環境を創造する』と掲げている。その理念に則り、これまで学校や病院、庁舎などの公共建築、その他再開発案件の高層ビル、ホテルなどの建築に携わってきた。これまではものづくりの結果として、そのような環境を創造する、という理解をしていたが、最近は、そこで働く人達（社員、職長、職人ほか関係者すべて）がいきいきと働くことができなければそういった環境は創造できないだろう、と考えるようになってきていた。

そんな時に「赤坂中学校等整備工事作業所」において、設計本部、環境本部と共にこれからの仮設事務所のあり方を提案、実現していこうということになり、今回の取り組みに至った。

そういった環境で働くことができれば、社員、職長、職人は、より一層意欲的に働き、能力を発揮することにもつながり、その結果、生産性の向上、働き方改革にも貢献することができる。また併せて、社会的なニーズも高まっているカーボンニュートラルにも配慮した「ウエルネス & ZEB ready」というテーマで事務所のつくり込みに着手した。

各部署とワーキング議論を繰り返し、コミュニケーション【つながりを感じさせる空間、日常会話を誘発する空間、組織の一体感（エンゲージメント）の醸成】と、仮設事務所では国内初となる ZEB ready 認証の取得を主眼において計画を進めた。

5. 具体的な実施内容とその運用 今後の課題

以下に具体的な実施内容を紹介させていただく。図-4 は全体配置図であり、写真-1 のように敷地形状に沿うよう建物を 3 つに分節し、売店棟を中心に木製足場板で構築したデッキスペースの屋外環境をつくっている。写真-2 はアクティ

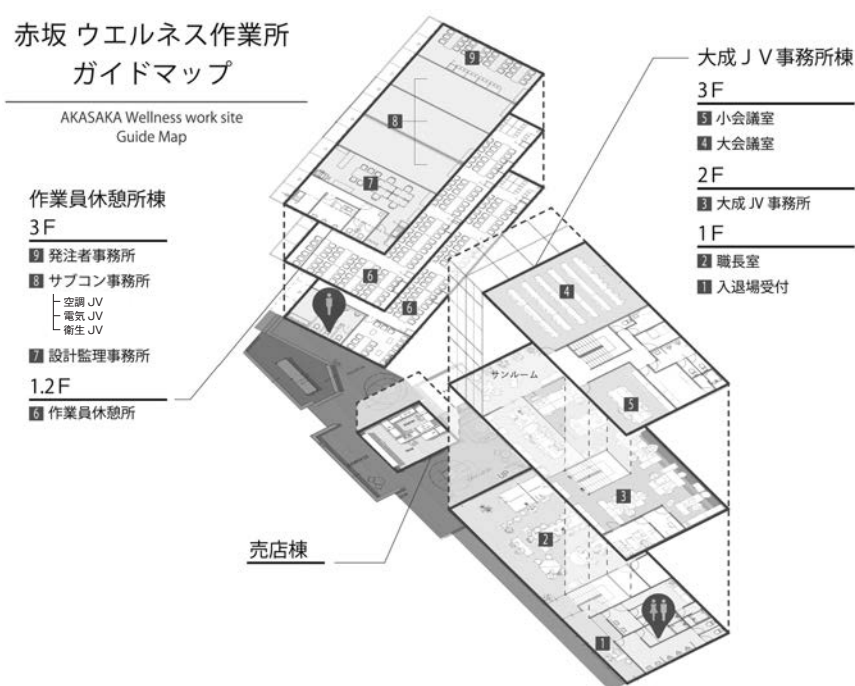


図-4 3棟による分棟配置



写真－１ 「赤坂中学校等整備工事業所」 全景



写真－２ アクティブプラザ



写真－３ フリーアドレス職長室



写真－４ サンプルーム

ブプラザで、多くの職人が行き交うスペースは、現場全体を見渡しながらか簡単な打合せや、さまざまなイベントに対応（夏季にはかき氷提供などを実施）できる場所とし、活発な交流を促進する。

写真－３はフリーアドレス職長室である。作業所関係者のメイン動線上に設けてあり、間仕切壁

もなく、社員と職長、職長と職人、来客者との打合せなど、誰でも使える空間となっており、気が付けばそこに人が集まってさまざまな議論が行われている。

写真－４はサンプルームである。通常、現場マンにこの発想はない。設計本部からの提案で、所員

の人気スポットである。現場が一望でき、2階メインオフィスの隣に配置された吹抜けの明るい空間で気持ちが良い。数人で雑談してみたり、一人で図面を広げてみたり、現場を眺めながら打合せをしてみたり。時には難しい話をするとき等、オープンで快適なこの空間に設計者や発注者を招き入れて議論を交わすこともあった。

また、仮設事務所屋根への太陽光発電システム、ガラス遮熱フィルム、外壁・天井の高断熱仕様、LED照明の採用など、省エネに配慮した結果、ZEB ready 認証も取得することができた。

まだまだ多数の魅力的な空間をご紹介したいが、誌面の関係でここまでにさせていただく。

ここでの運用が始まって半年以上が経過しているが、社員、職長、職人の評判は良好である。また、業界紙にも取り上げられた経緯から、これまでに関わった発注者や設計事務所からの問合せもあり、さまざまな効果をもたらしていると実感して

いる。

コミュニケーションが図りやすい施設となっているので、社員、職長、職人もののびのびと業務に取り組んでいると感じている。発注者や設計事務所、関係者との打合せなどもスムーズに推移しており、工事工程が当初予定より前倒して進んでいることも効果の表れではないかと考えている。

課題としては、コスト面が挙げられる。今回のケースでは、通常の仮設事務所に比べて初期コストが大きくなった。しかしその結果、コミュニケーション活性化や意欲向上によって生産性も高まったと感じている。実施に当たっては、現場規模、状況に応じて「ウエルネスレシピ」をどこまで取り入れるかを検証した上で採用していくことで、その現場に応じた快適な事務所が実現可能になる。

今回の取り組みを通じ、設計の力、環境の力を実感した。実務で尽力いただいた皆さまへ深く感謝を申し上げる。